

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-45128

(P2003-45128A)

(43)公開日 平成15年2月14日(2003.2.14)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコ-ト(参考)
G 11 B 20/14 7/007 20/10	3 4 1 3 0 1 3 1 1	G 11 B 20/14 7/007 20/10	3 4 1 A 5 D 0 4 4 5 D 0 9 0 3 0 1 Z 3 1 1

審査請求 未請求 請求項の数34 O.L (全 14 頁)

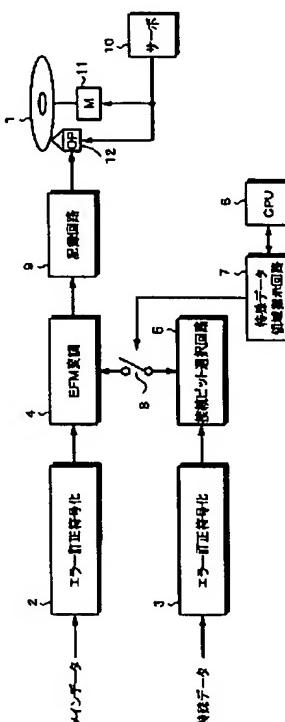
(21)出願番号	特願2001-232622(P2001-232622)	(71)出願人	000002185 ソニー株式会社 東京都品川区北品川6丁目7番35号
(22)出願日	平成13年7月31日(2001.7.31)	(72)発明者	佐古 曜一郎 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ ー株式会社内
		(74)代理人	100082762 弁理士 杉浦 正知
			Fターム(参考) 5D044 BC03 CC06 DE02 DE50 DE57 DE58 GK17 GL01 GL02 GL20 GL50 5D090 AA01 BB02 CC01 CC04 CC14 DD03 FF49 GG17 GG34 GG36

(54)【発明の名称】 データ記録装置および方法、データ再生装置および方法、並びに記録媒体

(57)【要約】

【課題】 既存装置との互換性をとりながら特殊データの記録／再生を可能とする。

【解決手段】 光ディスク1の特殊データ記録領域にE FM変調の接続ビットを使用して特殊データを記録する。特殊データ領域では、メインデータのシンボルがチャンネルビット「01000100000000」(10進数の「4」のデータビットに対応するチャンネルビット)に固定されている。この場合には、2通りの接続ビットパターンを選択することが可能である。接続ビット選択回路5は、特殊データに応じて接続ビットパターンを選択する。接続ビットパターン「010」、「100」に、それぞれ、特殊データの情報「0」、「1」を割り当てることができる。選択された接続ビットがE FM変調回路4に入力され、記録回路9を介して光ピックアップ12によって光ディスク1に記録される。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 入力されるディジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm($m > n$)ビットのデータに変換するとともに、上記mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすように上記mビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成するデータ記録装置であって、
上記kビットのビットパターンに応じて他のデータを記録することを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 2】 請求項1において、

上記n、m、kが、それぞれ、8、14、3であることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 3】 請求項1において、

上記他のデータは、上記データのセキュリティを保つためのデータであることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 4】 請求項1において、

上記他のデータは、リードイン部および／あるいはリードアウト部に記録されることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 5】 請求項1において、

上記他のデータは、トラック間の領域に記録することを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 6】 請求項1において、上記kビットと隣接するmビットのデータが一定のビットパターンであることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 7】 請求項1において、

さらに、上記他のデータを変調する変調手段を備えることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 8】 請求項1において、

さらに、上記kビットに隣接するmビットのデータを参照する参照手段を備え、上記参照手段による参照結果に応じて上記kビットのビットパターンを選択することを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 9】 入力されるディジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm($m > n$)ビットのデータに変換するとともに、上記mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすように上記mビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成するデータ記録方法であって、
上記kビットのビットパターンに応じて他のデータを記録することを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 10】 請求項9において、

上記n、m、kが、それぞれ、8、14、3であることを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 11】 請求項9において、

上記他のデータは、上記データのセキュリティを保つためのデータであることを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 12】 請求項9において、

上記他のデータは、リードイン部および／あるいはリードアウト部に記録されることを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 13】 請求項9において、

上記他のデータは、トラック間の領域に記録することを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 14】 請求項9において、

上記kビットと隣接するmビットのデータが一定のビットパターンであることを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 15】 請求項9において、

さらに、上記他のデータを変調する変調手段を備えることを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 16】 請求項9において、

さらに、上記kビットに隣接するmビットのデータを参照する参照手段を備え、上記参照手段による参照結果に応じて上記kビットのビットパターンを選択することを特徴とするデータ記録方法。

【請求項 17】 入力されるディジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm($m > n$)ビットのデータに変換するとともに、上記mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすように上記mビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成し、上記kビットのビットパターンに応じて他のデータが記録された記録媒体を再生するデータ再生装置において、
上記mビットのデータをnビットに復調する復調手段と、

上記mビット間に配されたkビットのデータを抽出する抽出手段と、
上記抽出手段において抽出されたkビットのデータを他のデータに変換する変換手段とを備えることを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 18】 請求項17において、

上記n、m、kが、それぞれ、8、14、3であることを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 19】 請求項17において、

上記他のデータは、上記データのセキュリティを保つためのデータであることを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 20】 請求項17において、

上記kビットと隣接するmビットのデータが一定のビットパターンであることを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 21】 請求項17において、

さらに、上記他のデータを復調する復調手段を備えることを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 22】 請求項17において、

さらに、上記kビットに隣接するmビットのデータを参照する参照手段を備え、上記参照手段による参照結果に応じて上記kビットのビットパターンを選択することを特徴とするデータ再生装置。

【請求項 23】 入力されるディジタルデータに含まれ

るnビットのデータを所定のランレングス規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、上記mビットのデータを接続後にも所定のランレングス規則を満たすように上記mビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成し、上記kビットのビットパターンに応じて他のデータが記録された記録媒体を再生するデータ再生方法において、

上記mビットのデータとkビットのデータとを抜き出し、上記mビットのデータをnビットのデータに変換すると共に、上記kビットのデータをそのビットパターンに応じて他のデータに変換するデータ再生方法。

【請求項24】 請求項23において、

上記n、m、kが、それぞれ、8、14、3であることを特徴とするデータ再生方法。

【請求項25】 請求項23において、

上記他のデータは、上記データのセキュリティを保つためのデータであることを特徴とするデータ再生方法。

【請求項26】 請求項23において、

上記kビットと隣接するmビットのデータが一定のビットパターンであることを特徴とするデータ再生方法。

【請求項27】 請求項23において、

さらに、上記他のデータを復調することを特徴とするデータ再生方法。

【請求項28】 請求項23において、

さらに、上記kビットに隣接するmビットのデータを参照し、参照結果に応じて上記kビットのビットパターンを選択することを特徴とするデータ再生方法。

【請求項29】 nビットのデータを所定のランレングス規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、上記mビットのデータを接続後にも所定のランレングス規則を満たすように上記mビットのデータ間にkビットを配する変調方式により変調されたデータが記録された記録媒体であって、

上記kビットには、他のデータが埋め込まれていることを特徴とする記録媒体。

【請求項30】 請求項29において、

上記n、m、kが、それぞれ、8、14、3であることを特徴とする記録媒体。

【請求項31】 請求項29において、

上記他のデータは、上記データのセキュリティを保つためのデータであることを特徴とする記録媒体。

【請求項32】 請求項29において、

上記他のデータは、リードイン部および／あるいはリードアウト部に記録されることを特徴とする記録媒体。

【請求項33】 請求項29において、

上記他のデータは、トラック間の領域に記録することを特徴とする記録媒体。

【請求項34】 請求項29において、

上記kビットと隣接するmビットのデータが一定のビットパターンであることを特徴とする記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、データ記録装置および方法、データ再生装置および方法、並びに記録媒体に関し、特に、接続ビットに情報を埋め込むことを可能としたものである。

【0002】

【従来の技術】従来、記録媒体の高密度化を図るために、様々な変調方法が提案されている。良く知られているように、コンパクトディスク（以下、CD）では、ディスクの高密度化を実現するために、E FM変調方式（Eight to Fourteen Modulation: E FM）が用いられている。E FM変調とは、8ビットのデータを14チャンネルビットのコードに変換するとともに、この変換した14チャンネルビットのデータ間に、3ビットからなる接続ビットを配する変調方式である。この接続ビットを14チャンネルビットのデータ間に配する目的は、最小ランレングス3T（論理値「1」と「1」との間に、「0」が少なくとも2個以上）および最大ランレングス11T（論理値「1」と「1」との間の「0」の数が最大で10個）の調整と、DSV（Digital Sum Variation）の管理にある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、従来では、接続ビットは、最小ランレングス・最大ランレングスの調整と、DSVの管理とにのみ用いられ、接続ビット自身に情報を埋め込むことはされていなかった。

【0004】 したがって、この発明の目的は、接続ビットに情報を埋め込むことができるデータ記録装置および方法、データ再生装置および方法、並びに記録媒体を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、請求項1の発明は、入力されるデジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレングス規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、mビットのデータを接続後にも所定のランレングス規則を満たすようにmビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成するデータ記録装置であって、kビットのビットパターンに応じて他のデータを記録することを特徴とするデータ記録装置である。

【0006】 請求項10の発明は、入力されるデジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレングス規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、mビットのデータを接続後にも所定のランレングス規則を満たすようにmビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成するデータ記録方法であって、kビットのビットパターンに応じて他のデータを記録することを特徴とするデータ記録

方法である。

【0007】請求項17の発明は、入力されるディジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすようにmビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成し、kビットのビットパターンに応じて他のデータが記録された記録媒体を再生するデータ再生装置において、mビットのデータをnビットに復調する復調手段と、mビット間に配されたkビットのデータを抽出する抽出手段と、抽出手段において抽出されたkビットのデータを他のデータに変換する変換手段とを備えることを特徴とするデータ再生装置である。

【0008】請求項23の発明は、入力されるディジタルデータに含まれるnビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすようにmビットのデータ間にkビットを配する変調方法によって記録データを生成し、kビットのビットパターンに応じて他のデータが記録された記録媒体を再生するデータ再生方法において、mビットのデータとkビットのデータとを抜き出し、mビットのデータをnビットのデータに変換すると共に、kビットのデータをそのビットパターンに応じて他のデータに変換するデータ再生方法である。

【0009】請求項29の発明は、nビットのデータを所定のランレンジング規則を満たすm ($m > n$) ビットのデータに変換するとともに、mビットのデータを接続後にも所定のランレンジング規則を満たすようにmビットのデータ間にkビットを配する変調方式により変調されたデータが記録された記録媒体であって、kビットには、他のデータが埋め込まれていることを特徴とする記録媒体である。

【0010】請求項1および10に係る発明によれば、接続のためのkビットを使用して他のデータを埋め込むことができる。請求項17および23に係る発明によれば、mビット間に配されたkビットのデータを抽出し、抽出されたkビットのデータを、他のデータに変換するとによって、kビットに埋め込まれている他のデータを再生することができる。請求項29に係る発明によれば、記録媒体のデータ容量を減らすことなく、他のデータを記録媒体に記録することができる。従来では、接続のためのkビットは、情報が埋め込まれていなかったために、情報を復号することはなかった。したがって、従来の記録装置によって他のデータを埋め込むことができず、また、この発明が適用された結果埋め込まれた他のデータは、従来の再生装置によって再生することができないので、他のデータを秘密に記録することができる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、この発明の第1の実施形態について図面を参照しながら説明する。まず、この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置について説明する。データ記録装置は、例えばCD-D A (Digital Audio) のような再生専用ディスクを制作するためのマスタリング装置である。マスタリング装置の場合では、ガラス原盤上にフォトレジスト膜が被着され、記録データでその強度が変調されたレーザ光によって露光される。その後、フォトレジスト膜が現像処理され、ディスク原盤が作成される。

【0012】次いでガラス原盤の凹凸パターン上に無電界メッキ法等によりニッケル被膜となる導電化膜層を形成する。導電化膜層が形成された光ディスク原盤を電鋳装置に取り付け、電気メッキ法により導電化膜層上にニッケルメッキ層を形成する。続いてニッケルメッキ層付きガラス原盤からニッケルメッキ層をカッター等で剥離し、そのニッケルメッキ層信号形成面のフォトレジストをアセトン等を用いて洗浄し、スタンパを作製する。その金型を用いて、P C (ポリカーボネイト) の透明樹脂に射出成形を行い、微小な凹凸(信号に相当するビットパターン)が転写されたディスクが形成される。

【0013】なお、この発明は、マスタリング装置に限らず、C D - R (Recordable)、C D - R W (Rewritable)、D V D - R (Digital Video Disc-Recordable)、M D (MiniDisk)等の記録可能な光ディスクを使用した記録装置に対しても適用可能である。

【0014】図1は、この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置の構成の一例を示すブロック図である。図1において、参照符号1がガラス原盤上にフォトレジスト膜が塗布されたディスクまたは記録可能な光ディスクである。以下においては、これらを総称して単に光ディスク1と称する。この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置は、エラー訂正符号化回路2、エラー訂正符号化回路3、E F M変調回路4、接続ビット選択回路5、C P U 6、特殊データ領域指示回路7、スイッチ8、記録回路9、サーボ10、スピンドルモータ11および光ピックアップ12から構成される。

【0015】エラー訂正符号化回路2は、供給されるメインデータに対して、C I R C (Cross Interleave Reed Solomon Code) 符号化を施し、E F M変調回路4に供給する。ここで、エラー訂正符号化回路2に供給されるメインデータは、例えばサンプリング周波数44.1 k Hzで、16ビットリニア量化で発生したデジタルオーディオデータであり、例えば著作権保護のために暗号化されている。暗号化の鍵データが特殊データとして光ディスク1に記録される。

【0016】一例として、この発明の第1の実施形態においては、エラー訂正符号化回路2に入力されるメインデータのシンボル(8データビット)のうちで、特殊データ領域に記録されるメインデータのシンボルは、一定

のデータビットパターンに固定されている。例えば、特殊データ領域のメインデータのシンボルは、「0 0 0 0 0 1 0 0」（10進数の「4」）に全て固定されている。特殊データ領域については、後に説明する。

【0017】エラー訂正符号化回路3は、供給される特殊データに対して、C I R C符号化を施し、接続ビット選択回路5に供給する。ここで、特殊データは、例えば、暗号化されたコンテンツをデクリプトするための鍵情報やパスワードなどのセキュリティを保つためのデータである。

【0018】E F M変調回路4は、エラー訂正符号化回路2から供給される各シンボル（8データビット）を、最小ランレンジス3 T、最大ランレンジス10 Tを満たすような14チャンネルビットに変換する。具体的には、E F M変調回路4は、E F M変調回路4が有する変換テーブルに基づき、エラー訂正符号化回路2から供給される各シンボル（8データビット）を、14チャンネルビットに変換する。

【0019】図2は、E F Mの変換テーブルの一例を示す。図2に示すように、8データビットには、256通りのビットパターンがあり、これらのビットパターンが、それぞれ、最大ランレンジス3 Tおよび最小ランレンジス10 Tを満たす14チャンネルビットのビットパターンに対応付けられている。なお、図2においては、簡単のため、変換テーブルの一部が示されている。

【0020】また、E F M変調回路4は、各14チャンネルビットを接続した場合にも、最小ランレンジス3 T、最大ランレンジス10 Tを満たすようにするために、「0 0 0」、「0 0 1」、「0 1 0」および「1 0 0」の4通りの接続ビットパターンから適切な接続ビットを選択する。以下に、幾つかの例により、この処理について説明する。

【0021】例えば、10進数で表した場合の「19」のデータに対応するチャンネルビット「1 0 0 1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0」同士を結合する場合には、4通りの接続ビットパターンを選択することが可能である。すなわち、「0 0 0」、「0 0 1」、「0 1 0」および「1 0 0」の4通りを選択する。そして、これらの接続ビットパターンの中から、最適な接続ビットパターンを選択し、この接続ビットパターンを、各14チャンネルビット間に配する。

【0022】また、10進数で表した場合の「0」のデータに対応するチャンネルビット「0 1 0 0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 0」同士を結合する場合には、「0 0 1」を除いた3通りの接続ビットパターンを選択することが可能である。すなわち、「0 0 0」、「0 1 0」および「1 0 0」の3通りを選択する。そして、これらの接続ビットパターンの中から、最適な接続ビットパターンを選択し、この接続ビットパターンを、各14チャンネルビット間に配する。

【0023】また、10進数で表した場合の「4」のデータに対応するチャンネルビット「0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0」同士を結合する場合には、2通りの接続ビットパターンを選択することが可能である。すなわち、「0 1 0」および「1 0 0」の2通りを選択する。

【0024】また、10進数で表した場合の「1」のデータに対応するチャンネルビット「1 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0」同士を結合する場合には、1通りの接続ビットパターン、すなわち「1 0 0」を選択し、この接続ビットパターンを、各14チャンネルビット間に配する。この場合では、他のデータを接続ビットを使用して埋め込むことができない。

【0025】接続ビット選択回路5は、特殊データ領域指示回路7によりスイッチ8がオンされた場合には、エラー訂正符号化回路3から供給される特殊データに応じて、E F M変調回路4において14チャンネルビット間に配される接続ビットパターンを選択する。なお、この発明の第1の実施形態においては、特殊データ領域のメインデータに含まれる各14チャンネルビットは、2通りの接続ビットパターンを選択可能のように固定されている。例えば、チャンネルビット「0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0」（10進数の「4」のデータビットに対応するチャンネルビット）に固定されている。したがって、この発明の第1の実施形態においては、接続ビット選択回路5は、エラー訂正符号化回路3から供給される特殊データに応じて、2通りの接続ビットパターンのうちのどちらか一方を選択する。

【0026】図3は、2通りの接続ビットパターンを選べる場合における、接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す。ここでは、接続ビットパターンとして、「0 1 0」、「1 0 0」を選択できる場合を例として示す。図3に示すように、2通りの接続ビットを選べる場合には、接続ビットに1ビットの情報を埋め込むことができる。すなわち、接続ビットパターン「0 1 0」、「1 0 0」に、それぞれ、情報「0」、「1」を割り当てることができる。

【0027】また、接続ビット選択回路5は、エラー訂正符号化回路3から供給されるデータを格納するメモリ（図示せず）を備え、エラー訂正符号化回路3から供給されたデータは、このメモリに格納される。

【0028】C P U 6は、特殊データ領域指示回路7を制御する。具体的には、C P U 6は、接続ビットにデータを埋め込む領域のメインデータがE F M変調回路4に入力された場合には、E F M変調回路4と接続ビット選択回路5との間に備えられたスイッチをオンするための制御信号を出力する。特殊データ領域は、例えば、リードイン領域、リードアウト領域、トラック間のギャップ領域、プログラム領域中の所定領域の少なくとも1つの領域であり、この発明の第1の実施形態においては、リードイン領域である。

【0029】特殊データ領域指示回路7は、CPU6から供給される制御信号に基づき、特殊データを記録する領域を指示する。具体的には、特殊データ領域指示回路7は、CPU6から供給される制御信号に基づき、EFM変調回路4と接続ビット選択回路5との間に備えられたスイッチ8をオン／オフする。

【0030】記録回路9では、フレーム同期信号、アドレス等の付加の処理がなされ、また、記録回路9には、ドライブ回路が設けられており、記録回路9の出力が光ピックアップ12内の半導体レーザに供給されることによって、記録データに応じて強度が変調されたレーザが光ピックアップ12から光ディスク1に対して照射される。

【0031】サーボ回路10は、スピンドルモータ11および光ピックアップ12に制御信号を供給する。スピンドルモータ11は、サーボ回路10から供給される制御信号に基づき、光ディスク1を回転駆動する。光ピックアップ12は、サーボ回路10から供給される制御信号に基づき、トラッキング動作およびフォーカス動作が制御される。

【0032】図4は、この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置の特殊データ記録処理を説明するためのフローチャートである。ここでは、各接続ビットに1ビットの情報を埋め込む場合を例として示す。

【0033】まず、特殊データのビットを特定する変数*i*を初期値例えば0にセットする(ステップS1)。次に、接続ビット選択回路5が、接続ビット選択回路5に備えられたメモリ(図示せず)から、特殊データの*i*番目のデータD*i*を読み出す(ステップS2)。次に、接続ビット選択回路5が、*i*番目のデータD*i*が「0」であるか否かを判断する(ステップS3)。データD*i*が「0」であると判断した場合には、「0」用接続ビットを選択する(ステップS4)。一方、データD*i*が「0」でないと判断した場合には、「1」用接続ビットを選択する(ステップS5)。この発明の第1の実施形態においては、図3に示すように、「0」用接続ビットは、「010」であり、「1」用接続ビットは「100」である。

【0034】次に、EFM変調回路4が、エラー訂正符号化回路2から供給されるシンボルを14チャンネルビットに変換し、この変換した14チャンネルビット間を、ステップS4あるいはステップS5で選択された接続用ビットにより接続し、記録回路9に供給する(ステップS6)。

【0035】次に、接続ビット選択回路5が、記憶装置に格納された特殊データを全て処理したか否かを判断する。全て処理したと判断した場合には、特殊データ記録処理は終了となる。特殊データの処理が全て終了していないと判断した場合には、データ記録装置は、変数*i*をインクリメントしてステップS2に戻り、上述と同様の

処理を繰り返す。

【0036】次に、この発明の第1の実施形態による光ディスク1の記録フォーマットについて説明する。図5Aは、この発明の第1の実施形態による光ディスク1の特殊データ領域における記録データのフレーム構成を示す。図5に示すように、1フレームは、同期パターン部(24チャンネルビット)、サブコーディング部(1シンボル、すなわち14チャンネルビット)、第1のデータ部(12シンボル、すなわち12×14チャンネルビット)、第1のパリティ部(4シンボル、すなわち4×14チャンネルビット)、第2のデータ部(12シンボル、すなわち12×14チャンネルビット)、および第2のパリティ部(4シンボル、すなわち4×14チャンネルビット)からなる。なお、各シンボル(同期パターンも24ビットからなるシンボルとみなす)の結合のために、3ビットの接続ビットがフレーム内に含まれる。この接続ビットの総ビット数は、 $34 \times 3 = 102$ チャンネルビットである。したがって、1フレームは、合計で588チャンネルビットからなる。

【0037】図5Bは、特殊データ領域におけるシンボルおよび接続ビットの構成の一例を示す。ここでは、特殊データ領域に記録されているメインデータの各シンボルが、「01000100000000」(10進数の「4」のデータに対応する14チャンネルビットのパターン)に固定されている例が示されている。

【0038】各シンボル間には、最大ランレンジス11Tおよび最小ランレンジス3Tを満たすように、接続ビット「010」および「100」のいずれかが配されている。ここでは、上述したように、接続ビット「010」、「100」は、それぞれ、特殊データの論理値「0」、「1」に対応している。

【0039】図6は、この発明の第1の実施形態によるデータ再生装置の構成の一例を示すブロック図である。図6に示すように、この発明の第1の実施形態によるデータ再生装置は、スピンドルモータ101、光ピックアップ102、RFアンプ103、サーボ回路104、同期検出回路105、EFM変調回路106、CIRCエラー訂正回路107、CPU108、特殊データ領域指示回路109、接続ビット抜回路111、特殊データデコーダ112およびCIRCエラー訂正回路113から構成される。

【0040】光ディスク1はスピンドルモータ101によって回転駆動される。光ピックアップ102は、光ディスク1にレーザを照射して反射光を受光し、受光した反射光に基づいて読み取り信号を得て、読み取り信号をRF(Radio Frequency)アンプ103に供給する。なお、レーザ光強度は、図示しないAPC(Automatic Power Control)によって適正化される。RFアンプ103は、供給される読み取り信号にゲインなどの処理を施す。RFアンプ103の出力がサーボ回路104と、同

期検出回路105とに供給される。同期検出回路105は、フレーム同期信号を検出し、検出信号を後段の処理のタイミング基準として使用する。

【0041】サーボ回路104は、RFアンプ103の出力に基づいて、トラッキングエラー信号、フォーカスエラー信号、およびスピンドルエラー信号などを生成する。トラッキングエラー信号およびフォーカスエラー信号は光ピックアップ102に供給される。スピンドルエラー信号はスピンドルモータ101に供給される。これらの信号に基づいて光ピックアップ102およびスピンドルモータ101は、読み取り信号を良好に保つように動作する。

【0042】EFM復調回路106は、記録データに施されているEFM変調に対応する復調処理を行う。EFM復調回路106の出力は、CIRCエラー訂正回路107に供給される。CIRCエラー訂正回路107は、EFM復調回路106の出力について、CIRC符号化を復号して、エラー訂正された復号データを生成する。

【0043】CPU108は、特殊データ領域の位置に関する情報を持っており、特殊データ領域指示回路109を制御する。例えば、CPU108は、特殊データ領域が再生された場合には、スイッチ110をオンするための制御信号を出力する。特殊データ領域指示回路109は、CPU108から供給される制御信号に基づき、特殊データを抜き出す領域を指示する。具体的には、特殊データ領域指示回路109は、CPU108から供給される制御信号に基づき、スイッチ110をオン／オフする。なお、光ディスク1の所定の位置例えばTOC領域に特殊データ領域を示す情報を記録するようにしても良い。

【0044】接続ビット抜出回路111は、同期検出回路105から出力された特殊データ領域のデータに含まれる接続ビットを抜き出し、特殊データデコーダ112に供給する。特殊データデコーダ112は、接続ビット抜出回路111から供給された特殊データをデコードし、CIRCエラー訂正回路113に供給する。例えば、特殊データデコーダ112は、接続ビット抜出回路111から供給された接続ビット「101」、「100」を、それぞれ、情報「0」、「1」に変換し、CIRCエラー訂正回路113に供給する。CIRCエラー訂正回路113は、特殊データデコーダ112から供給されたデータについて、CIRC符号化を復号して、エラー訂正された復号データを生成する。

【0045】図7は、この発明の第1の実施形態によるデータ再生装置の特殊データ再生処理を説明するためのフローチャートである。ここでは、接続ビットに1ビットの情報が埋め込まれている場合を例として示す。まず、データ再生装置は、特殊データ領域よりi(i=0)番目の特殊データD_iを抜き出す処理を開始する(ステップS11)。ここで、特殊データ領域は、リードイン部である。

【0046】次に、接続ビット抜出回路111が、同期検出回路105から供給される特殊データ領域のデータから接続ビットを抜き出し、特殊データデコーダ112に供給する(ステップS12)。特殊データデコーダ112が、抜き出した接続ビットが「0」用接続ビットであるか否かを判断する(ステップS13)。接続ビットが「0」用接続ビットである場合には、特殊データD_iとして「0」を、CIRCエラー訂正回路113に出力する。接続ビットが「0」用接続ビットでない場合には、特殊データD_iとして「1」を、エラー訂正回路113に出力する。

【0047】次に、CPU108が、特殊データ領域であるリードイン部のデータの再生が終了したか否かを判断する。リードイン部のデータの再生が終了したと判断した場合には、スイッチ110をオフにするための制御信号を特殊データ領域指示回路109に供給する。リードイン部のデータの再生が終了していないと判断した場合には、スイッチ110をオンに維持し、特殊データ領域よりi(i+1)番目の特殊データD_iを抜き出す処理を開始する(ステップS17)。

【0048】上述した例では、接続ビットに1ビットの情報が埋め込まれている光ディスクから特殊データを再生する例について示したが、接続ビットに2ビットの情報が埋め込まれている光ディスクから特殊データを再生することも可能である。具体的には、特殊データデコーダ112が、抜き出したビットが「00」用接続ビットであると判断した場合には、「00」をCIRCエラー訂正回路113に供給し、抜き出したビットが「01」用接続ビットであると判断した場合には、「01」をCIRCエラー訂正回路113に供給し、抜き出したビットが「10」用接続ビットであると判断した場合には、「10」をCIRCエラー訂正回路113に供給し、抜き出したビットが「11」用接続ビットであると判断した場合には、「11」をCIRCエラー訂正回路113に供給する。ここで、例えば、「00」用接続ビット、「01」用接続ビット、「10」用接続ビット、「11」用接続ビットは、それぞれ、接続ビット「000」、「001」、「010」、「011」用接続ビットである。

【0049】上述したように、この発明の一実施形態によれば、接続ビット部分に特殊データを埋め込むことができるため、従来のデータ再生装置と互換性を有する、特殊データを埋め込んだ光ディスクを提供することができる。また、既存フォーマットのデータ容量を減少させることなく、特殊データを記録データに付加することができる。また、再生データから接続ビットを抜き出すだけで、簡易に特殊データを読み出すことができる。また、記録データの接続ビットを、特殊データに応じて選択するだけで、簡易に特殊データを記録データに付加す

することができる。

【0050】次に、この発明の第2の実施形態について説明する。上述したこの発明の第1の実施形態においては、特殊データ領域にデータを記録する際に、接続ビットによるDSVコントロールを行わない例について示したが、この発明の第2の実施形態は、特殊データ領域にデータを記録する際に、接続ビットによるDSVコントロールを行うものである。図8は、この発明の第2の実施形態によるデータ記録装置の構成の一例を示すブロック図であり、図9は、第2の実施形態によるデータ再生装置の構成の一例を示すブロック図である。理解の容易のために、DSVの変化の例について説明する。

【0051】図10は、チャンネルビット「010010001000000」(10進数の「0」のデータに対応する14チャンネルビット)同士を、接続ビット「000」により、接続した場合のDSVの変化のグラフを示す。図10に示すように、n番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tnには、DSVは「4」であり、n+1番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tn+1には、DSVは「3」である。したがって、時間ΔT (=Tn+1-Tn)間で、DSVは、「-1」減少している。すなわち、特殊データ「0」に対応する接続ビット「000」が連続している場合には、DSVは時間が経過するにつれて減少する。

【0052】図11は、チャンネルビット「010010001000000」(10進数の「0」のデータに対応する14チャンネルビット)同士を、接続ビット「100」により、接続した場合のDSVのグラフを示す。図11に示すように、n番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tnには、DSVは「4」であり、n+1番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tn+1には、DSVは「5」である。したがって、時間ΔT (=Tn+1-Tn)間で、DSVは、「+1」増加している。すなわち、特殊データ「1」に対応する接続ビット「100」が連続している場合には、DSVは時間が経過するにつれて増加する。

【0053】図12は、チャンネルビット「010010001000000」(10進数の「0」のデータに対応する14チャンネルビット)同士を、接続ビット「010」により、接続した場合のDSVのグラフを示す。図12に示すように、n番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tnには、DSVは「4」であり、n+1番目のチャンネルビット「010010001000000」の終了時Tn+1には、DSVは「7」である。したがって、時間ΔT (=Tn+1-Tn)間で、DSVは、「+1」増加している。すなわち、特殊データ「1」に対応する接続ビット「010」が連続している場合には、DSVは時間が経過するにつ

れて増加する。

【0054】上述したグラフより、特殊データ領域において、接続ビット「000」と「100」が同数存在するようすれば、DSVをコントロールできることが分かる。すなわち、接続ビットとして、特殊データ「0」を「000」に割り当て、特殊データ「1」を「100」に割り当てておき、特殊データ領域において、特殊データの論理値「0」「1」が、同数存在するようすればDSVを収束させることができる。

【0055】よって、この発明の第2の実施形態においては、特殊データをフェーズエンコードすることにより、DSVコントロールを行う。例えば、特殊データの論理値「0」を、「01」にフェーズエンコードし、特殊データの論理値「1」を、「10」にフェーズエンコードする。このようにフェーズエンコードすることにより、特殊データ中に含まれる「0」と「1」との数を同数にすることができ、DSVの発散を防止できる。

【0056】図8に示すように、この発明の第2の実施形態によるデータ記録装置は、エラー訂正符号化回路2、エラー訂正符号化回路3、EFM変調回路4、接続ビット選択回路5、CPU6、特殊データ領域指示回路7、スイッチ8、記録回路9、サーボ回路10、スピンドルモータ11、光ピックアップ12およびフェーズエンコーダ13から構成される。なお、第1の実施形態によるデータ記録装置と共通する部分には同一の符号を付し、詳細な説明を省略する。

【0057】接続ビット選択回路5は、特殊データ領域指示回路7によりスイッチ8がオンされた場合には、エラー訂正符号化回路3から供給される特殊データに基づき、EFM変調回路4において8データビットから14チャンネルビットに変換されたシンボル間に配する接続ビットを選択する。例えば、エラー訂正符号化回路3から特殊データ「0」が供給された場合には、接続ビットとして「000」を選択し、エラー訂正符号化回路3から特殊データ「1」が供給された場合には、接続ビットとして「100」を選択する。

【0058】フェーズエンコーダ13は、エラー訂正符号化回路2から特殊データをフェーズエンコードする。この発明の第2の実施形態においては、フェーズエンコーダ13は、エラー訂正符号化回路3から特殊データ「0」が供給された場合には、「01」に変換し、エラー訂正符号化回路2から特殊データ「1」が供給された場合には、「10」に変換する。

【0059】なお、この発明の第2の実施形態によるデータ記録装置の特殊データ記録処理は、上述した第1の実施形態によるデータ記録装置の特殊データ記録処理と略同様であるので、説明を省略する。

【0060】図9は、この発明の第2の実施形態によるデータ再生装置の構成の一例を示すブロック図である。図14に示すように、この発明の一実施形態によるデ

タ再生装置は、スピードールモータ101、光ピックアップ102、RFアンプ103、サーボ回路104、同期検出回路105、EFM変調回路106、CIRCエラー訂正回路107、CPU108、特殊データ領域指示回路109、接続ビット抜出回路111、特殊データデコーダ112、CIRCエラー訂正回路113およびフェーズデコーダ114から構成される。なお、第1の実施形態によるデータ記録装置と共通する部分には同一の符号を付し、詳細な説明を省略する。

【0061】フェーズデコーダ12は、特殊データデコーダから出力された特殊データを、フェーズデコードし、CIRCエラー訂正回路に供給する。この発明の第2の実施形態においては、フェーズデコーダ12は、特殊データデコーダから特殊データ「01」が供給された場合には、「0」に変換し、特殊データデコーダから特殊データ「10」が供給された場合には、「1」に変換する。

【0062】なお、この発明の第2の実施形態によるデータ再生装置の特殊データ再生処理は、上述した第1の実施形態によるデータ再生装置の特殊データ再生処理と略同様であるので、説明を省略する。

【0063】上述したように、この発明の第2の実施形態によれば、接続ビットによりDSVコントロールを行いつつ、接続ビット部分に特殊データを埋め込むことができる。また、従来のデータ再生装置と互換性を有する、特殊データを埋め込んだ光ディスクを提供することができる。また、既存フォーマットのデータ容量を減少させることなく、特殊データを記録データに付加することができる。また、再生データから接続ビットを抜き出すだけで、簡易に特殊データを読み出すことができる。また、記録データの接続ビットを、特殊データに応じて選択するだけで、簡易に特殊データを記録データに付加することができる。

【0064】以上、この発明の実施形態について具体的に説明したが、この発明は、上述の実施形態に限定されるものではなく、この発明の技術的思想に基づく各種の変形が可能である。

【0065】例えば、この発明の第1および第2の実施形態においては、この発明を光ディスクについて適用する例について示したが、これ以外の記録媒体にこの発明を適用してもかまわない。

【0066】上述した第1および第2の実施形態においては、リードイン部の接続ビットに特殊データを埋め込む例について示したが、トラック間（例えば曲間の無音部分）あるいはリードアウト部の接続ビットに特殊データを埋め込むようにしてもかまわない。

【0067】また、この発明の第1および第2の実施形態においては、2通りのビットパターンを選択できる場合を例として示したが、3通りあるいは4通りの接続ビットを選択できるようにしてもかまわない。図13およ

び図14は、接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す。

【0068】図13は、4通りの接続ビットパターンを選べる場合における、接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す。図13に示すように、4通りの接続ビットを選べる場合には、接続ビットに2ビットの情報を与えることができる。すなわち、接続ビットパターン「000」、「001」、「010」、「100」に、それぞれ、情報「00」、「01」、「10」、「11」を与えることができる。

【0069】図14は、3通りの接続ビットパターンを選べる場合における、接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す。ここでは、接続ビットパターンとして、「000」、「010」、「100」を選択できる場合について示す。図14に示すように、3通りの接続ビットを選べる場合には、接続ビットに1ビットの情報を埋め込むことができる。すなわち、接続ビットパターン「000」、「010」、「100」に、それぞれ、情報「0」、「1」、「1」を与えることができる。なお、接続ビットパターンへの情報の与え方は、この例に限られるものではなく、「000」、「010」、「100」に、それぞれ、情報「0」、「0」、「1」を与えるようにしてかまわない。また、「000」、「010」、「100」に、それぞれ、情報「0」、「1」、「0」を与えるようにしてかまわない。

【0070】図15は、3通りの接続ビットパターンを選べる場合における、接続ビットパターンへの情報の与え方の他の例を示す。ここでは、接続ビットパターンとして、「000」、「010」、「100」を選択できる場合について示す。図12に示すように、3通りの接続ビットを選べる場合には、2つの接続ビットを用いることにより、3ビットの情報を埋め込むことができる。

【0071】また、上述した第1および第2の実施形態においては、シンボルが一定のパターンに固定されている場合に、接続ビットに特殊データを与える例について示したが、シンボルが一定のパターンに固定されていない場合に、接続ビットに特殊データを与えるようにしてもかまわない。具体的には、CPU6が、接続ビットを配する前後のシンボルのビットパターンを参照し、この参照結果に応じて、接続ビット選択回路がビットパターンを配するようとする。

【0072】また、上述した第1および第2の実施形態においては、シンボルが一定のパターンに固定されている場合に、接続ビットから特殊データを読み出す例について示したが、シンボルが一定のパターンに固定されていない場合に、接続ビットから特殊データを読み出すようにしてもかまわない。具体的には、CPU108が、接続ビットと隣接する（前後の）シンボルのビットパターンを参照し、この参照結果に応じて、接続ビット抜出回路111がビットパターンを抜き出すようにする。

【0073】図16Aに示すように、接続ビットパターンとし「000」が入る時には、これを特殊データの論理値「0」とし、「000」以外を論理値「1」とする。「000」が入らない場合には、図16Bに示すように、接続ビットパターンと特殊データの論理値の対応関係を規定し、この規定に基づいて特殊データを復号する。そのためには、図6に示す第1の実施形態における再生装置、並びに図9に示す第2の実施形態における再生装置において、破線の信号経路で示すように、特殊データデコーダ112に対してE FM復調回路106からの復調されたメインデータを供給する必要がある。

【0074】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、接続ビット部分に特殊データを埋め込むことができるため、従来のデータ再生装置と互換性を有する特殊データを埋め込んだ記録媒体を提供することができる。しかし、従来のデータ再生装置では、特殊データを再生できないので、秘密に特殊データを記録することが可能となる。また、既存フォーマットのデータ容量を減少させることなく、特殊データを記録データに付加することができる。また、再生データから接続ビットを抜き出すだけで、簡易に特殊データを読み出すことができる。また、記録データの接続ビットを、特殊データに応じて選択するだけで、簡易に特殊データを記録データに付加することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置の構成の一例を示すブロック図である。

【図2】E FMの変換テーブルの一例を示す略線図である。

【図3】接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す略線図である。

【図4】この発明の第1の実施形態によるデータ記録装置の特殊データ記録処理を説明するためのフローチャートである。

【図5】この発明の第1の実施形態によるデータのフレームフォーマットについて説明するための略線図である。

【図6】この発明の第1の実施形態によるデータ再生装置の構成の一例を示すブロック図である。

【図3】

接続ビット	情報
010	0
100	1

【図7】この発明の第1の実施形態によるデータ再生装置の特殊データ再生処理を説明するためのフローチャートである。

【図8】この発明の第2の実施形態によるデータ記録装置の構成の一例を示すブロック図である。

【図9】この発明の第2の実施形態によるデータ再生装置の構成の一例を示すブロック図である。

【図10】チャンネルビット「01001000100000」(10進数の「0」)同士を、接続ビット「00」により、接続した場合のDSVを示すグラフである。

【図11】チャンネルビット「01001000100000」(10進数の「0」)同士を、接続ビット「10」により、接続した場合のDSVを示すグラフである。

【図12】チャンネルビット「01001000100000」(10進数の「0」)同士を、接続ビット「10」により、接続した場合のDSVを示すグラフである。

【図13】接続ビットパターンへの情報の与え方の一例を示す略線図である。

【図14】接続ビットパターンへの情報の与え方の他の例を示す略線図である。

【図15】接続ビットパターンへの情報の与え方の更に他の例を示す略線図である。

【図16】接続ビットパターンへの情報の与え方のより更に他の例を示す略線図である。

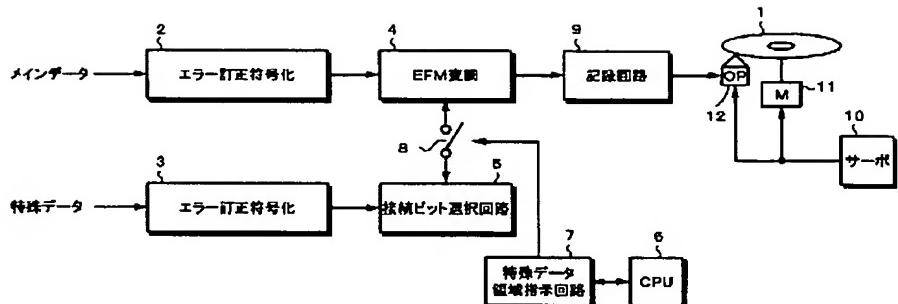
【符号の説明】

1 . . . 光ディスク、2, 3 . . . エラー訂正符号化回路、4 . . . 接続ビット選択回路、5 . . . E FM変調回路、6, 108 . . . CPU、7 . . . 特殊データ領域指示回路、8, 110 . . . スイッチ、9 . . . 記録回路、10, 104 . . . サーボ、11, 101 . . . スピンドルモータ、12, 102 . . . 光ピックアップ、103 . . . RFアンプ、105 . . . 同期回路、106 . . . E FM復調回路、107, 113 . . . CIRCエラー訂正回路、109 . . . 特殊データ領域指示回路、111 . . . 接続ビット抜回路、112 . . . 特殊データデコーダ

【図14】

接続ビット	情報
000	0
010	1
100	1

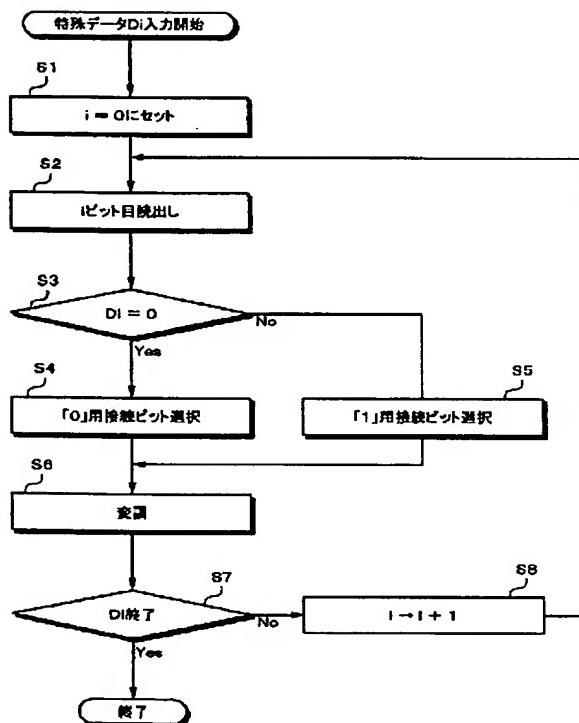
【図1】



【図2】

detabit	channelbit
0	01001000100000
1	10000000000000
2	0000000010
3	10010000100000
4	0000000011
5	10001000100000
6	00000000100
7	01000100000000
8	000000001000
9	00000000111
10	01000100100000
11	10001000100000
12	000000001000
13	01000100000000
14	00000000110
15	00010001000000
16	00000000111
17	00100001000000
18	000000001000
19	10010001000000
20	000000001000
21	000000001000
22	000000001000
23	000000001000
24	000000001000
25	000000001000
26	000000001000
27	000000001000
28	000000001000
29	000000001000
30	000000001000
31	000000001000
32	0000000010000

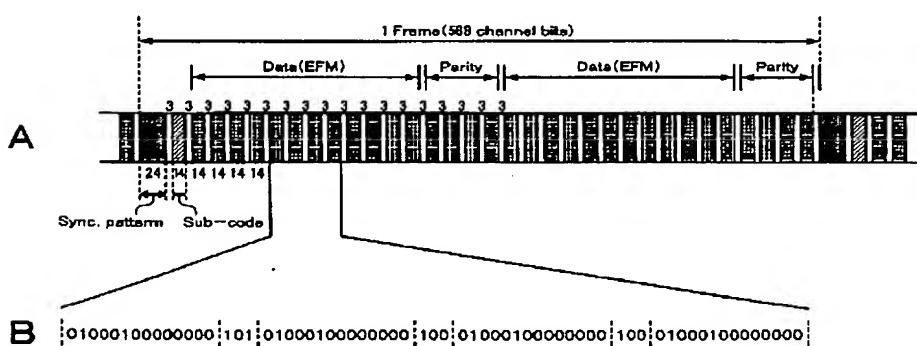
【図4】



【図13】

接続ビット	情報
000	00
001	01
010	10
100	11

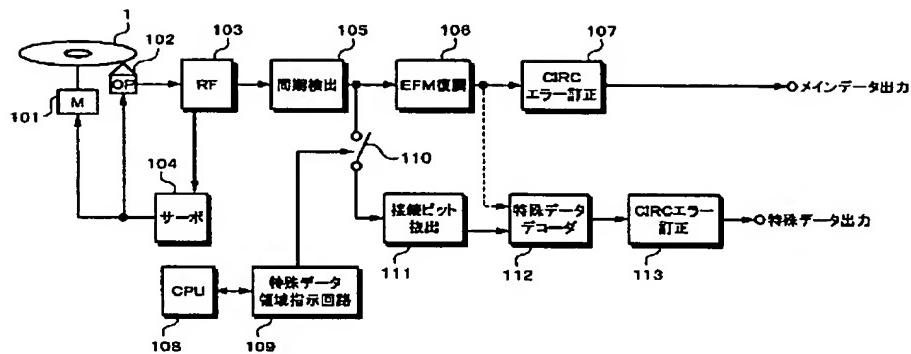
【図5】



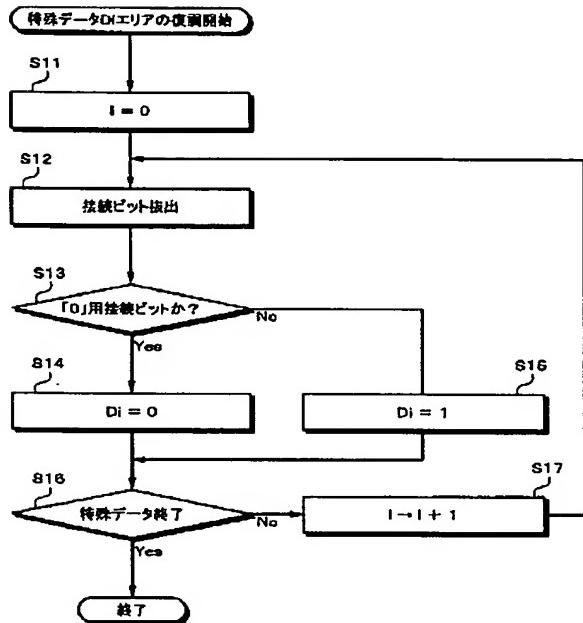
【図15】

接続ビット	情報
000 000	000
000 001	100
000 100	010
010 000	001
010 010	110
010 100	101
100 000	011
100 010	111
100 100	111

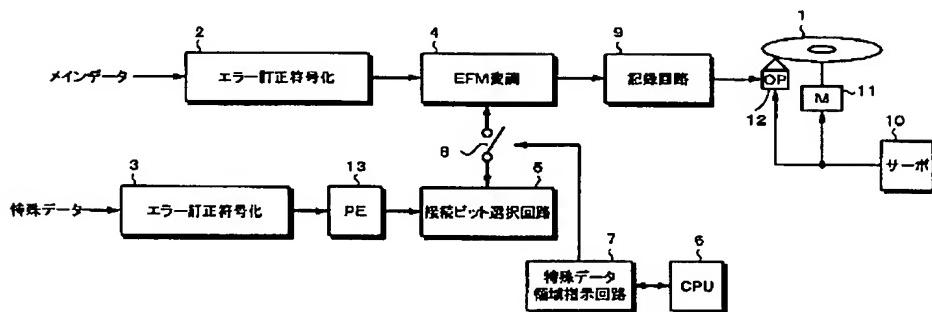
【図 6】



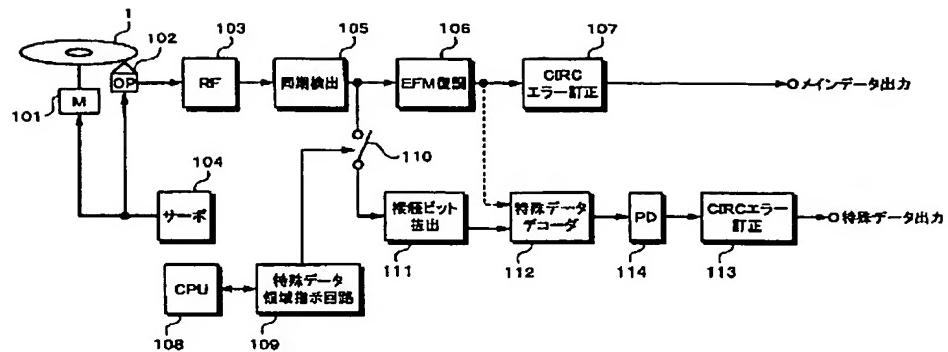
【図 7】



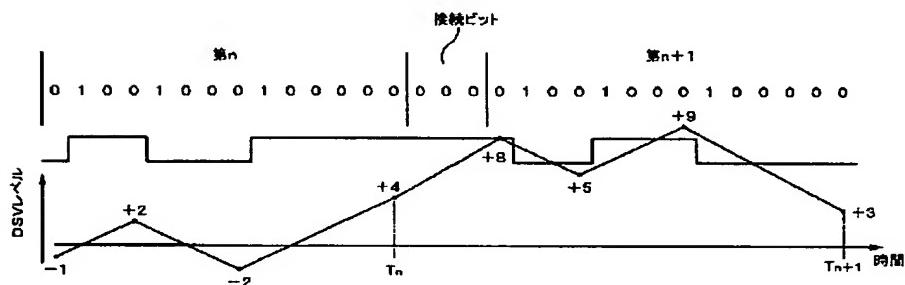
【図 8】



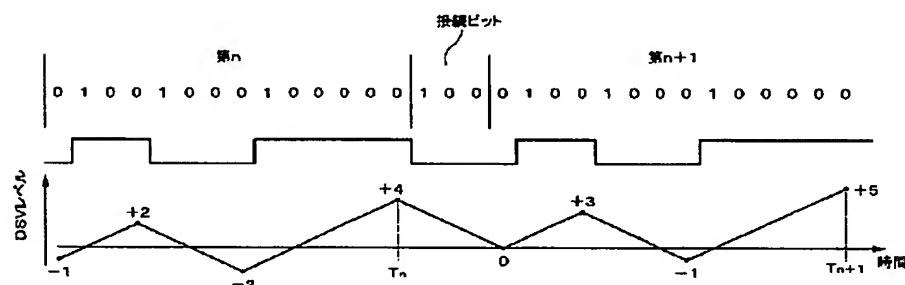
【図 9】



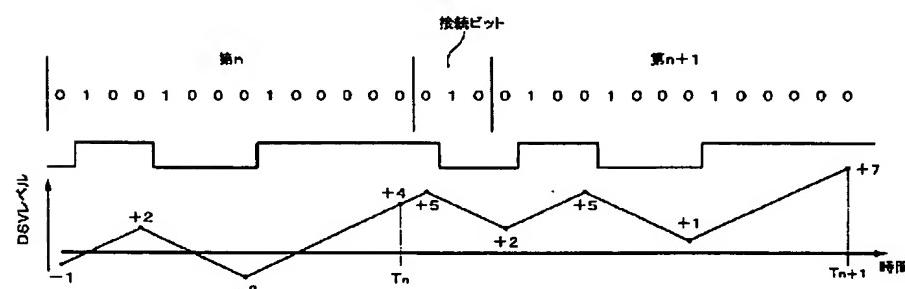
【図 10】



【図 11】



【図 12】



【図16】

A

000	0
(000)以外	1

B

000	0
010	1
100	1

001	0
010	1

001	0
100	1

010	0
100	1

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.